

第2分科会 テーマ「介護」についての議論の整理（9月10日現在） 文責：成富

個人的要因

<希望、意識、問題点>

<改善のアイデア>

自分の希望

- *1人暮らしでも在宅でがんばる
- *心身ともに自立し介護を受けなくて暮らしたい
- *病気になるはず生き生き暮らす
- *今の生活を維持したい
- *自分の健康は自分で守る、自己責任

自分の努力

- *健康維持は食事睡眠休養
- *体力維持のためにスポーツに参加する

介護を受けることへの意識

- *自分がしてほしいことをどうやったらうまく伝えられるか
- *介護してくれる人に気を使ってしまう。他人からの世話を慣れていない。
- *施設設備の内容も気になるが自分が大変だからしょうがない。

活動への意欲

- *誰かの役に立つことを続けたい
- *医療関係の仕事をしていたので役に立ちたい
- *ケースの話を聞き納得のいく世話をしたい

介護者がかかえる問題（1）

- *舅を30年間介護、男の人の介護は難しい
- *三世代介護の問題（老・老・老介護）
- *介護者が、おばあちゃんがトイレに行きたくても、介護者が補聴器を外してしまい、聞こえない。
- *子育てと介護が重なるなど、1人に負担がかからない楽しい関係でいられるか。
- *子育て、介護があっても仕事を続けられるか。

介護を受けるときの姿勢

- *自分らしく生きるため、ヘルパーに気を使わない。地域の力を使う。

介護者がかかえる問題（2）精神面

- *介護する人の健康維持・ストレス発散が必要。
- *介護している人のメンタルケアが必要。
- *介護を終えて後を追うように亡くなる人も多い
- *介護疲れによる自殺や心中などの予防

介護者の状況の改善

- *介護する人の相談にのる。
- *介護している人を表彰してあげられたら・労をねぎらってあげたい。
- *介護者へ励ましを。
- *地域にとびこんで人間関係をつくる。
- *夫を亡くしたが、趣味の集まりに参加することで気分の転換ができた社会活動に参加したい
- *介護の初期段階でデイサービスなどを利用し認知症の進行を遅らせる
- *認知症、老年期うつ病などの理解と対応について健康教育。

地域での社会活動・社会参加

地域でのたまり場づくり

- * 高齢者が楽しめる場所をたくさん作る
- * 高齢者が気楽にすぐいける場づくり
- * 高齢になっても気軽に立ち寄ることのできる「たまり場」の充実
- * 男性のための「たまり場」・楽しめる場作りづくり
- * 外にでたがらない人をどのように地域に引き出したらいいか。

近隣の人間関係づくり

- * 遠くの親戚より近くの他人
- * 近所の人たちへ、ちょっとした挨拶の心がけをしている。
- * 新しい人には挨拶できない。
- * 近所の高齢者に声をかけ、うつにならないようにする
- * 新たな住民と長く暮らしてきた住民の関係

自分の力を地域に役立てる

- * いくつになっても、何かの役に立てる、自分でやりたいことができる地域社会になってほしい。
- * 障害者が小学校で子供と接するなど、彼らの力を活用する方法を考えたら。
- * より若い障害者のもつ力を高齢者に活用する。
- * 高齢者の社会経験をより若い障害者の社会生活の訓練に活用するような、相互作用を期待する。
- * 世代交流ができるような地域の活動を。

知的好奇心を満たすシステムづくり

- * 男性が若い頃の技術を生かして「起業」するような場を。高齢者の夢を叶え、事務的部分は専門スタッフが処理するようなシステムを。
- * 市民カレッジ（老人大学）でたくさんのメニューを。
- * 知的満足を高めるための共同作業所が必要。

スポーツ

- *スポーツ交流会をやっている。メニューの多様化が必要。
- *レガス人材バンクはあるが、使える場は少ない

地域の施設利用の問題点

- *ことぶき館など、グループで固まり、席も決まり入りこめない。新しい人が加わりにくい。ボスがいる
- *風呂に入りに行かないかと誘われたが行く気がしない。

地域の施設利用の改善

- *グループの中に入っていられない人のサポート、輪をやわらかくするような働きかけ。
- *新しい人がとけこめるような、環境づくり
- *元気なお年寄りや障害者などが交流する場作り、相互利用で有効利用
- *学校などの施設の利用を。行政が確保してほしい。

町会の問題点

- *町会費を納めず、ゴミは出すという人も多くなってきた
- *マンションが増え、いままでの町会ではやりきれなくなってきた。マンションの自治会で町会に加入しないところが増えた 加入を求めてもメリットがないという声が多い。
- *マンションとしてまとめて加入したいといっても、一戸一戸は会員として認められないといわれた。
- *昔からの商店街をもとに町会ができているところは、新しい人は入りやすく役員になれない 老人クラブの方が動ける
- *防災の時など不安 災害時の対応は町会単位、町会に加入していない人には非常食支給をどうするか、という問題もある

町会の取り組み

- *町会の機能をもっといかせないか
- *町会には積極的に入っていった方がいい。町会の総会、旅行に参加して初めは変にみられたが、変わってきた。
- *自治会費なしの自治会もある、資源分別回収の収益をお祭りの金券にして会員に還元 資源回収の理解が深まり、分別意識も高まるという効果 新しい考え方をしないとむずかしい
- *町会掲示板はよく見られている。地域センターを利用できない人でも身近な掲示板は見ることができる。

公的な施策、制度的サービス

健康診断の問題点

- *気軽に健康チェックができる場所があったら
- *いきがい館（小滝橋）など無料で健康診断をしてくれる所が2ヶ所あるがどう
いう内容かわからない。自分の健康状態を教えてくれるが、そこまで行かない
と利用できない。
- *健康診断の無料化を、今の一部負担でもとても厳しい
- *年2回健康診断をうけるといっても、お金がかかりすぎてできない

健康診断の改善

- *ことぶき館や地域センターなどを医師が巡回できないか。身近な所から
取り組みを
- *健康診断の定期的実施

健康・介護予防の改善

- *医療費を抑えるための予防の充実
- *介護を受ける人をどうやって減らすかが一番大きな課題。
- *健康維持のための運動メニューの相談
- *予防トレーニングの必要、トレーニング、リハビリ施設の充実

介護施設の問題点

- *介護者が元気なうちは介護サービスを受けられないというのは矛盾している。
- *家族の状況で入所順位が異なるのは許せない
- *介護者が少ない。家族が手伝い。息子が毎日昼食介助に来ていた。認知症が進
んでしまった。

介護サービスの改善

- *介護者の要請・介護技術の充実を
- *障害者、認知症の方など、大きな施設でなく、地域の人も気軽に来られ
るような建物をつくる
- *介護保険外の質のいいサービス
- *日常生活に必要な買い物、乗物の乗り物の介助サービスがあると便利
- *税金が多少あがっても施設が増えるならよい
- *高齢者への食事の宅配サービス、ランチメニューが選べるという

ケアマネージャーの問題点

- *ケアマネージャにも素人とベテランがいる
- *最低40件もたないとやっていけない。*ケアプランだけ書いてもやっていけ
ない
- *ケアマネージャーが企業に属してしまっている。利益優先。

ケアマネージャーの改善

- *1つの機関にすべてのケアマネージャーが属する形態がよい

その他**元気館**

- *メニューを決めてもらうのはいいが、ずっとやり続けることが大事
- *行政はかかわってくれない、せっかくやっても逆効果に。

高齢期のすまい

- *家庭内事故、居住スペースのバリアフリー化
- *シルバーピア（高齢者向け集合住宅）事業はどうなっているのか。

情報

- *パソコン、インターネットを高齢者は使えない人が多いので、別の公開方法を考えるべき。誰でもアクセスできるものが必要。

むらさき手帳

- *むらさき手帳（12年度から廃止）は民生委員が地域の高齢者と接点をもつのに有効だった。現在は、民生委員が個人の家を訪問することが難しくなっている（個人情報保護などのため）。

注

- *会議記録、提言シートでの発言、提案を整理しました。
- *ごく一般的な見解はのぞき、具体的な意見をとりあげました。
- *この整理表をもとに、各項目で足りない点をさらに追加していけば、と思います。